

令和元年度 市町村セミナー

| | |
|-----------------|-----|
| 令和2年2月7日 | 資料7 |
| 市町村職員を対象とするセミナー | |

市町村の歯科保健医療行政に求められるもの -PDCAに基づく地域歯科保健活動-



国立保健医療科学院 国際協力研究部

三浦 宏子

令和2年2月7日

はじめに

－ドレイファス技能習得モデルの紹介－

| 段階 | 特徴 | 内容 |
|----------|-------------|---|
| 第1段階：初心者 | 指示書が必要 | ルールがあれば仕事を遂行できる 学びたい意欲はまだそれほどでもない |
| 第2段階：中級者 | 全体像の把握には難あり | 独力で仕事をこなすことができるが、 問題処理に手こずる、少しだけ決まった ルールから外れることができる |
| 第3段階：上級者 | 問題解決が可能 | 問題を探し出し解決する チームの指導的役割、初心者への助言 |
| 第4段階：熟練者 | 自己補正が可能 | 十分な経験と判断力、自己改善、他人の経験から学ぶ |
| 第5段階：達人 | 直観で動く | 膨大な経験があり、ぴったりの状況で応用 できる |



地域歯科保健行政の推進のため、どのようなスキルをどのように身につけるか

地域歯科保健を推進するうえで求められる能力

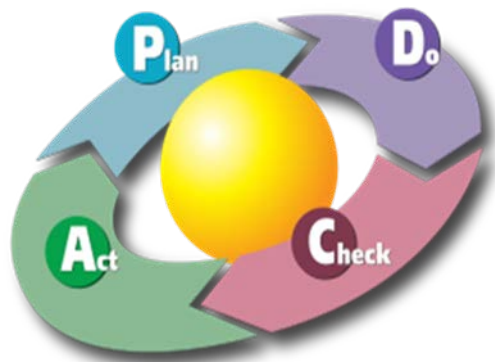
- 歯科保健課題に関連する「**データ**」を収集することができる
- データを分析し、「**根拠**」にすることができる
- 根拠をもとに「**健康課題**」を明らかにすることができる
- 健康課題の「**関連要因**」を抽出することができる
- 関連要因の「**優先順位**」をつけることができる
- 優先順位の高い要因の「**解決策**」を提案することができる
- これらの過程を「**見える化**」し、関係者や住民にわかりやすく伝えることができる

PCDAサイクルをしっかりと回し、地域歯科保健活動を進める

1. 地域歯科保健活動におけるPDCAサイクルの特徴

- PDCAサイクルの概要
- 地域歯科保健活動における“P”の特徴
- アセスメント、モニタリング、評価の使い分け
- PDCAにおける地域診断の位置づけ
- 地域診断とPDCAの関係

PDCAサイクルの概要



Plan : 目標を設定し、その実現に向けた
具体的な戦略を計画

Do : 計画の実行段階への移行

Check : 成果の測定とその結果の分析。
設定した目標との差を検討

Act : 問題点・改善点を洗い出し次に
つなげる

- 元は品質管理の手法のひとつ。生産プロセス（業務プロセス）の中で改良や改善を必要とする部分を特定・変更できるようプロセスを測定・分析
- それを継続的に行うために改善プロセスが連続的なフィードバックループとなるように提案

P D C Aサイクルの“P”の特徴

(1) 計画⇒**段取りが重要**

①現状分析

(情報収集、**アセスメント**、問題の抽出、
課題の明確化、優先課題の選定)

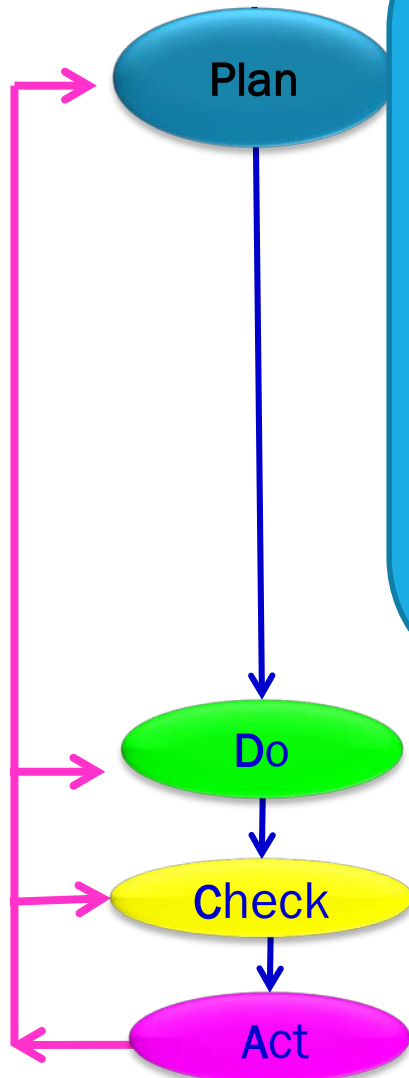
②目的の明確化

③計画の策定 (実施計画 & **評価計画**)

(2) 実施(計画の遂行)

(3) 評価(①ストラクチャー、②プロセス、③アウトプット、④アウトカム)

(4) 改善(計画の見直し:再計画)



アセスメント、モニタリング、評価の違い

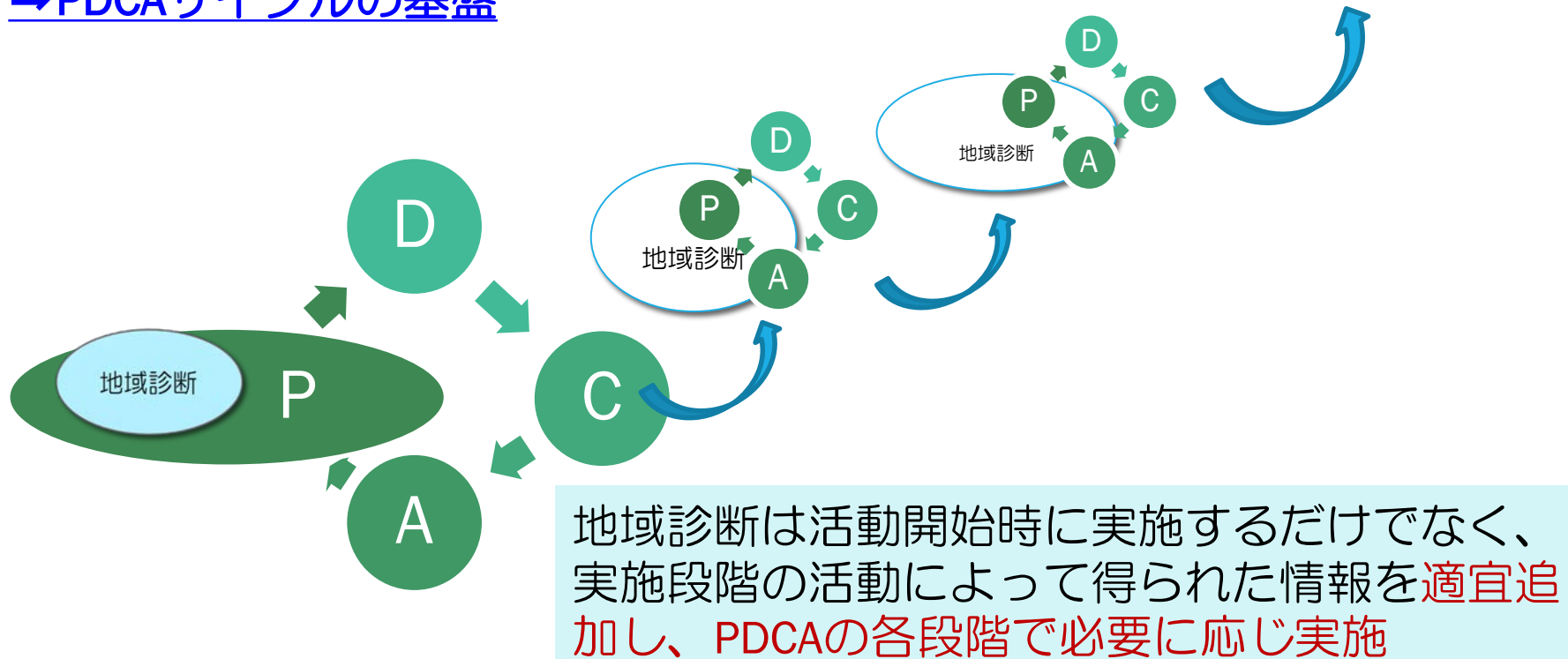
- アセスメント：
 - 事前評価（事前に必要な情報を調査、収集すること）
 - PDCAの「P」に関与
- モニタリング：
 - 進捗管理のための途中経過の把握
 - PDCAの「D」に関与
- 評価（アウトカム評価、アウトプット評価など）
 - 計画を導入した後の効果について把握
 - PDCAの「C」に関与

PDCAにおける地域診断の位置づけ

【地域診断】

：対象となる地域の保健衛生統計やデータ等を用いて、地域の特徴や問題を把握し、課題を明確にすること

⇒PDCAサイクルの基盤



地域診断とPDCAの関係

地域診断

地域診断により、地域において取り組むべき健康課題の明確化、健康課題の優先度の判断を、根拠をもって示すことができる。

車の両輪

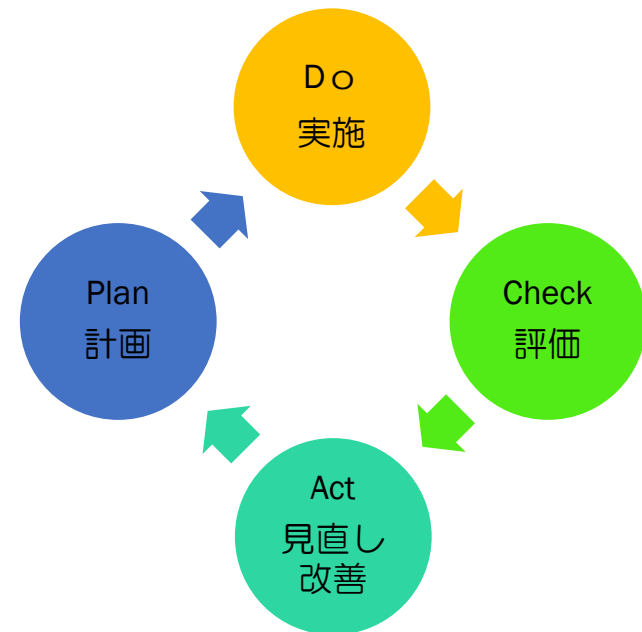


PDCAサイクル

住民の“ありたい姿”を実現する為に必要な、安定した体制づくり、効率的な運営・展開に役立つ

2. PDCAサイクルの各段階

- 1) Plan: 計画
- 2) Do: 実行
- 3) Check: 評価
- 4) Act: 改善



1) Plan(計画策定)

計画策定では

(1) 現状分析 (地域診断の活用)

: 情報収集、アセスメント、問題の抽出、
課題の明確化、優先課題の選定

(2) 目的の明確化 (設定)

(3) 計画の策定 (実施計画&評価計画)

⇒実施計画では、目標を達成するための手段・方法を立案する。

⇒実施計画とともに評価計画も立案する。

(評価計画が立案されていないと、事業実施後の効果測定ができない)

1) Plan(計画策定) (1) 現状分析

【地域診断のプロセス】

①健康課題等のニーズへの気づき

- これまでの業務等で知り得た地域組織活動などの対人保健活動、手持ちの統計資料なども活用して地域診断を実施し、複数の事例に共通する課題やニーズを認識する

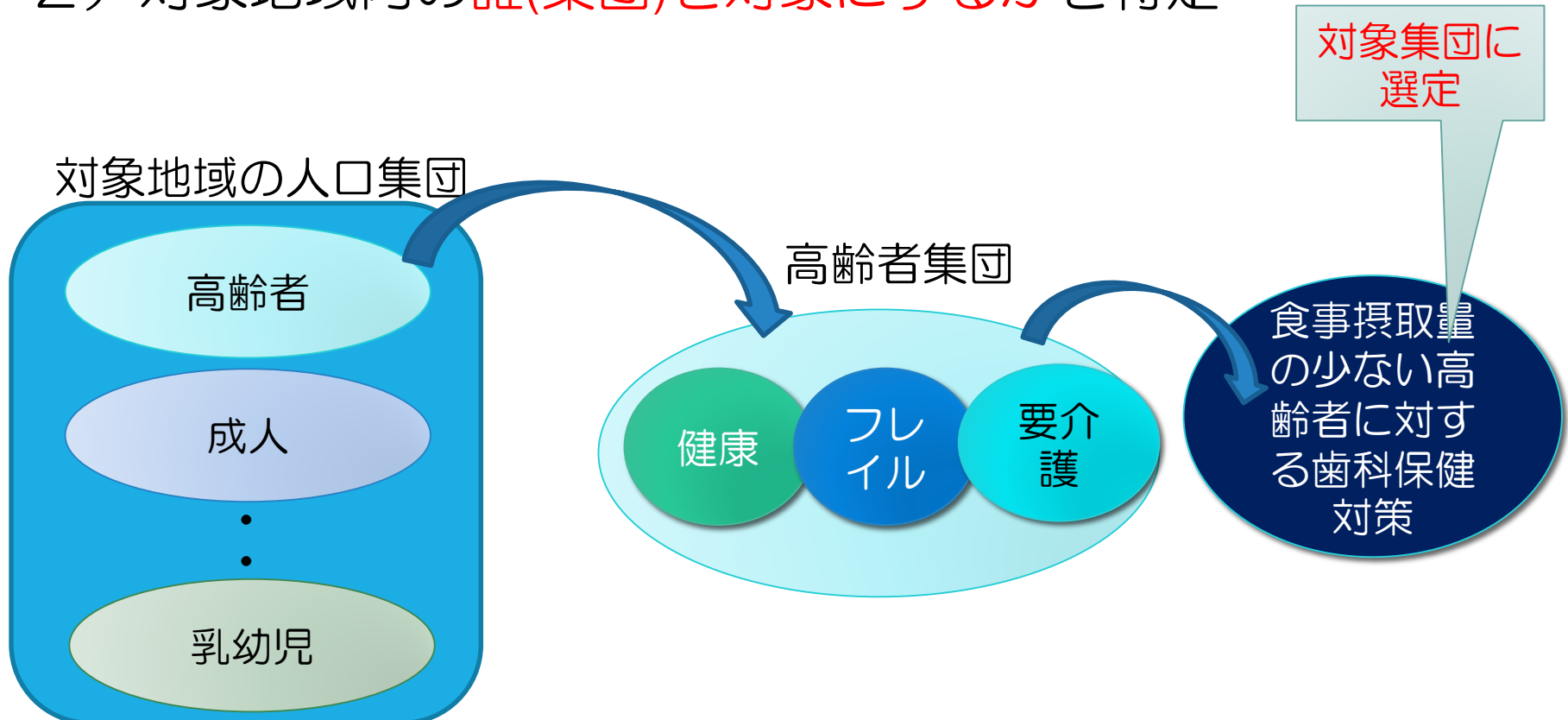
⇒日ごろから広い視野でアンテナを張り、ニーズに気づく力を養うことが必要(学会・研修会への参加、MLの活用)

1) Plan(計画策定) (1) 現状分析

【地域診断のプロセス】

②対象となる地域及び集団の特定

- 1) 対象地域（自治体全体・担当地区・医療圏など）を特定
- 2) 対象地域内の誰(集団)を対象にするかを特定



1) Plan(計画策定) (1) 現状分析

【地域診断のプロセス】

③情報収集

1. 対象集団の特性

- 人口、性・年齢別・地区別等の状況、出生・死亡・罹患・高齢化率等の事業対象者に関する情報
- 活動の対象数、活動への参加者数・率、継続フォロー数・率等

2. 活動の取り組み状況

- 活動開始のきっかけ、これまでの取り組み状況、達成状況と課題

3. 対象に関わる関係機関、社会資源の状況

- 関係機関の声、関係機関の対象に対する支援状況、連携状況等

1) Plan(計画策定) (1) 現状分析

【地域診断のプロセス】

④アセスメント

(問題の把握)

保健活動の対象集団、保健活動の取り組み、対象集団に関わる関係機関・社会資源の現状について情報を整理し、アセスメントする。



対象の健康状態を把握する上で必要となる情報収集・分析という過程を経て、健康上の問題や支援の必要性の有無について判断すること。

1) Plan(計画策定) (1) 現状分析

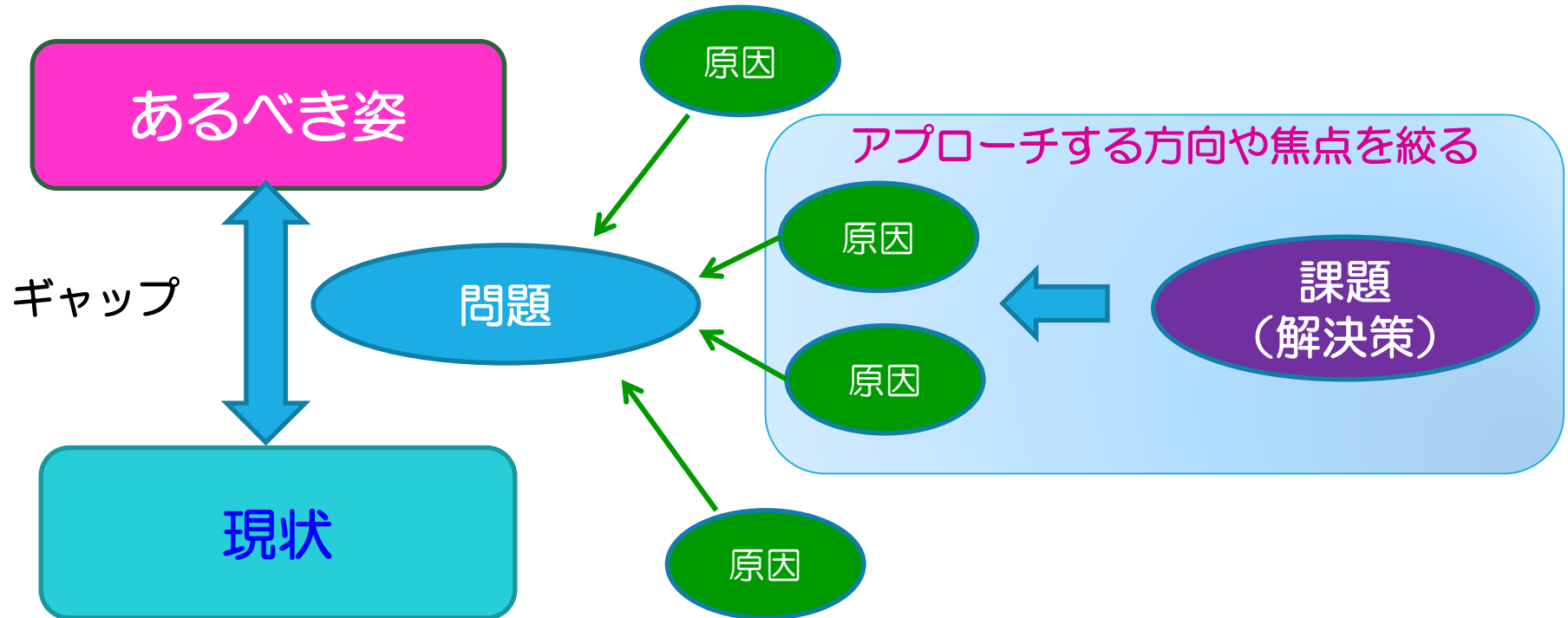
【地域診断のプロセス】

⑤健康課題の明確化と優先度の決定

- 収集した諸情報を解釈し、総合的に判断して課題を抽出する
- 課題の原因と課題から生じうる影響等（将来起こり得る事象）を予測する
- 解決可能な事柄を健康課題として抽出する
- 関連する指標の上位・下位関係を考慮

課題と問題の違い：表裏一体の関係

- 課題：「あるべき姿」と「現状」とのギャップ(=問題) を埋めるために(=解決するために) 必要な**解決策**
- 「課題」は「問題」をポジティブな方向に変えるための行動
 - 例：△△を減少する為に〇〇する必要がある



1) Plan(計画策定) (1) 現状分析 2. PDCAサイクルの各段階

<健康課題の優先度の選定>

重要性

より大

より小

実現可能性

より大
より小

最優先プログラム

政治的目的以外の
優先度は小新プログラムでの
優先度あり
(評価が不可欠)プログラムから
除外

1) Plan(計画策定)

(2) “目的” の設定

目的とは、最終的に達成したい状態

- 抽出された課題が解決されている状態、対象集団の理想とする姿を表現する
- 事業を展開することによって、対象集団がどのような状態になるのか表現する
- 対象集団を主語として表現する
- 達成年度の目安を記載する

【例】 全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現⇒健康日本21（第二次）の目的

1) Plan(計画策定)

(2) “目標”の設定

目標とは、
目的を達成するための必要条件、
刻限までの到達点（短期ゴール）

- “何（誰）が” “いつまでに（達成時期）”
“どうなる（目指すべき変化した状態）” ことを
目指す（目標とする）かを具体的に示す。
- 事業を展開するうえで、歯科保健担当職が変化を
狙うすべての対象について記載する
- 優先順位を考慮し、**段階別・主語別**に整理する

1) Plan(計画策定)

(3)計画の策定

- 目標ごとに「①**実施計画**」と「②**評価計画**」を策定する
- 実施計画では、目標を達成するための手段・方法を立案する
- 評価計画が立案されていないと、事業実施後の効果測定ができない
- できるだけ、関係者（他の部署や関係機関等）と協働で行う：パートナーシップの形成


1) Plan(計画策定)

(3)計画ー① “実施”計画の策定

- 実施計画：目標を達成するための手段・方法として立案する
- 事業のプロセスとして、事前準備（情報収集，関係者との打ち合わせ，プロジェクト会議等）から実施内容、事後（フォロー，結果のフィードバック）までの一連のプロセスからなる活動として，内容を網羅する
- 具体的に5W1H「いつ・どこで・誰が・誰に・何を・どのようにするか」示す
- 今年度予定されている計画は具体的に，来年度以降の計画は、実施時期を含めてわかる範囲で記載する

1) Plan(計画策定)

(3)計画一② “評価”計画の策定

- 歯科保健活動は、地域住民の認識に働きかけ、健康状態や行動変容を目指すため、その**効果を短期間に得ることが難しいものも多い**
- 
- 計画段階で、評価対象・時期や評価方法を十分に検討する。評価体制も構築しておく必要がある（評価指標、評価時期・段階、評価方法、目標値を計画時に策定）

保健活動の評価の枠組み

| 評価の項目 | 観 点 | 主目的 | |
|----------------------|-------------------------|----------------------|------|
| ストラクチャー (構造) | 誰が、どういう体制で | 歯科保健活動の見直し、改善に役立てるため | 総合評価 |
| プロセス (過程) | どのように (実際に実施した内容の評価) | | |
| アウトプット (結果：事業実施量) | どれだけやって どのような結果が生じたか | | |
| アウトカム (成果) | その結果、 どのような成果を生んだか | | |

アウトプット評価の評価計画の例

| 評価指標 | 測定方法 | 評価時期 | 評価結果 |
|---|--|-------------------|------|
| <p>1. 研修参加者 (高齢者施設の職員)</p> <p>1-1)高齢者の口腔機能低下について理解できる者の割合の増加 25%→80% へ</p> <p>1-2)高齢者の口腔機能低下の早期発見・早期観察ポイントが理解できる者の割合の増加。10%→70% へ</p> | <ul style="list-style-type: none">・研修終了後のアンケート (理解度等)・参加者の反応(観察、参加者の意見) | 研修 終了時 (9月) | |

アウトカム評価の評価計画の例

| 評価指標 | 測定方法 | 評価時期 | 評価結果 |
|---|-----------------------|---------|------|
| <p><齲蝕の地域格差の縮小></p> <p>1. 3歳児で齲蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加</p> | <p>・ 3歳児健診データの活用</p> | 5年ごとの評価 | |
| <p>2. 12歳児の一人平均う歯数が1.0歯未満である都道府県の増加</p> | <p>・ 学校保健統計データの活用</p> | | |

2) Do (実施)

立案した計画の遂行とモニタリング

- 目的に立ち返りながら計画を遂行する
 - ※注意すべき点：手段の目的化に陥らない
- 目的の達成に向かう行程のどこにいるか確認
(モニタリングの活用)
- 部局間連携、都道府県との協力関係があると成果が得られやすい⇒横ぐし、縦ぐしを通す
 - 例：高齢者歯科保健、障害児・者に対する歯科保健対策など

3) Check(評価)

実施した結果の評価

(事前に作成した「評価計画」に従って評価する)

※評価計画が作られていないと適切な評価ができない。

- (1) ストラクチャー評価
- (2) プロセス評価
- (3) アウトプット評価
- (4) アウトカム評価

ストラクチャー（企画）評価の評価計画の例

| 評価指標 | 測定方法 | 評価時期 | 評価結果 |
|---|-----------------------|------------------------|--|
| <p>【従事する職員の体制】 職種・職員数・職員の資質等適切か？</p> <p>【係る予算】は適切であったか</p> <p>【施設・設備の状況】は適切か？</p> <p>【他機関との連携体制】は十分なされているか？</p> <p>【社会資源の活用状況】は十分なされているか？</p> <p>【地域診断・目的の評価】</p> <p>1) 現状や課題にあった目的であったか？</p> <p>2) 担当者・関係者で共有できる目的であったか？</p> <p>【評価計画】</p> <p>1) 評価指標は評価しやすいものであったか？</p> <p>2) 評価の時期は適切だったか？</p> <p>3) 評価体制は適切であったか？</p> | <p>業務担当職員で評価会議を実施</p> | <p>事業終了時 (年度末)</p> | <p>【従事する職員の体制】 保健師は十分、歯科衛生士が必要</p> <p>【係る予算】不足</p> <p>【施設・設備の状況】 アクセスが予想以上に悪い</p> <p>【他機関との連携体制】 歯科医師会との連携不足</p> <p>【社会資源の活用状況】 当事者の活用が必要</p> <p>【地域診断・目的の評価】</p> <p>1) 経過観察中</p> <p>2) 平易な言葉での表現へ</p> <p>【評価計画】</p> <p>1) アンケートに改善必要</p> <p>2) 評価の時期は適切</p> <p>3) 評価体制は、統計処理の担当者が必要</p> |

プロセス評価の評価結果の例

| 評価指標 | 評価時期 | 測定方法 | 評価結果 |
|---|-------|--|---|
| 1. 事前準備 1-1)資料の適切性 1-2)会議前に委員と協議 (内容について協議できたか) | 会議終了後 | <ul style="list-style-type: none"> 出席者の反応 担当者間協議 | <ul style="list-style-type: none"> 管内の保健統計、事業実績から資料を作成した。歯科有病状況の推移が分かり易かったとの意見があり、資料は適切であった。 会議前にヒアリングシートを作成し、歯科医師会、行政の保健部署と意見交換を実施できた。 |
| 2. 運営会議 2-1)開催回数 2-2)参加機関、出席者数 | 会議終了後 | <ul style="list-style-type: none"> 会議録 出席者名簿 | <ul style="list-style-type: none"> 運営会議1回(10月1日) 会議出席者15名、21人 (歯科医療機関、歯科医師会、保健所、市町村など) |
| 2-3)テーマについて協議できたか | | <ul style="list-style-type: none"> 担当者間協議 会議録 | <ul style="list-style-type: none"> 対象者の支援の状況報告など、それぞれの機関から現状報告後、課題について協議できた。 |

アウトプット評価の評価計画の例

| 評価指標 | 測定方法 | 評価時期 | 評価結果 |
|--|--|----------------------------|---|
| <p>1. 研修参加者 (高齢者施設の職員が)</p> <p>1-1) 高齢者の口腔機能低下について理解できる者の割合の増加 25%→80% ^</p> <p>1-2) 高齢者の口腔機能低下の早期発見・早期観察ポイントが理解できる者の割合の増加。10%→70% ^</p> | <p>・研修終了後のアンケート (理解度・自由意見)</p> <p>・理解度については順位尺度などを用いて可視化</p> | <p>研修 終了時 (9月)</p> | <p>1-1) 85%と目標を上回る達成度が得られた</p> <p>1-2) 50%と大きく増加したが、目標には達せず。研修方法について改善を図る必要がある。</p> |

アウトカム評価の評価計画の例

| 評価指標 | 測定方法 | 評価時期 | 評価結果 |
|---|--|----------------|---|
| <p>＜齲蝕の地域格差の縮小＞</p> <p>1. 3歳児で齲蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加（6都道府県→23都道府県）</p> | <ul style="list-style-type: none"> 3歳児健診データの活用 | <p>5年ごとの評価</p> | <p>1. 大きく増加し、目標値を達成した。今後は、目標を上方修正する必要がある。</p> |
| <p>2. 12歳児の一人平均う歯数が1.0歯未満である都道府県の増加（7都道府県→28都道府県）</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校保健統計データの活用 | | <p>2. 大きく増加し、目標値を達成した。今後は、目標を上方修正する必要がある。</p> |

4) A: Act (改善)

- 評価結果を踏まえ、
目的の達成度を総合的に評価し、次年度の方向性を示す。

特に、①対象集団のめざす姿への達成度
②残された課題
③新たな課題
について総合的に評価する

3 .PDCAに基づく歯科保健活動の展望



みんな悩んでいる

地域診断とPDCA

• 1) 技術の不足

- (1) 「現状」の認識・分析力が十分ではない
- (2) 課題を構造化して、課題の本質を具体化したり、優先順位づけしたりすることができない
- (3) 課題を定義する前提となる「あるべき姿」を的確に描けない（漠然としている）
- (4) 思い浮かぶ「解決策」から短絡的に課題を特定しがちである

• 2) 保健活動の特徴

- (1) 実施計画→実行(do)→実行(do)に陥りやすい
- (2) 目に見える評価を得るのに時間がかかることが多い

「意識しつづけること」が重要

- PDCAのポイント：一巡で終わらせない、できれば目指す目的に近づく**スパイラルアップ**型のPDCAにする
- 的確なツールを用いて、**効果を可視化**する
- スキルの不足は研修等の機会で補うことができる
⇒意欲があれば、誰でも「上級者」「熟練者」になれる

地域住民のニーズに応える効果的な歯科保健活動のためには、現在の活動方法・体制を見直し続ける必要がある